

ろう者学教育コンテンツ開発取組

筑波技術大学産業技術学部開講科目

「デフコミュニティと社会参加」指導案の公開サイトを新設!!

公開サイトURL:

<https://www.deafstudies.jp/info/dcss-index.html>

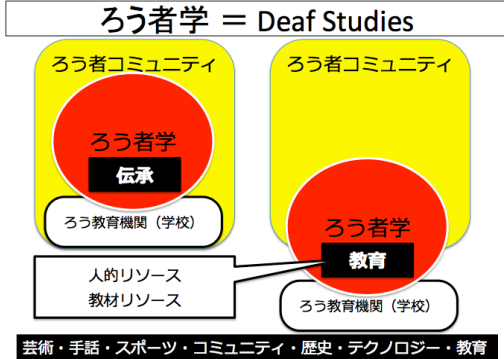
聾学校での
自立活動

大学での
聴覚障害学生
指導

1. ろう者学によるエンパワメント支援

筑波技術大学では産業技術学部で学ぶ聴覚障害学生を対象に「デフコミュニティと社会参加」という授業科目を提供しています。

到達目標は、ろう者・難聴者の権利保障、情報保障、コミュニケーション保障、スポーツ活動、文化活動、教育活動それぞれについて、個人生活とコミュニティの過去と現状を学び、ろう者・難聴者として社会参加を果たすために必要な知識を習得するとされており、自身に聴覚障害のある大杉豊教員が15回中7回分の授業を担当しています。これらについて授業の指導案、教材、参考文献などをここに掲載し、本学にて、聴覚障害のある教員が聴覚障害学生（2年次生）を対象にどのような内容を、どのような方法で指導しているかを公開しています。



2. 充実のコンテンツ

①きこえない人の生活に身近なテーマ

筑波技術大学では、「デフコミュニティと社会参加」講義は以下のような内容で実施しています!!

②話題性のあるメディア情報の提供

「ろうあるある」社会問題についての内容を新聞やインターネットなどから取り上げて、社会の動きや周りへ訴える、呼びかける方法について学ぶ。また、生活文化においては、ろう者コミュニティの視点からどのように捉えることが出来るのか、きこえない人たちがもつ独特な見方、生活感覚について知る。

大杉教員担当

■ 第1回ガイダンス・様々な資格に挑戦する(大杉) (キーワード) 欠格条項、運転免許	大杉教員担当
■ 第2回情報・コミュニケーション(大杉) (キーワード) 災害、音声情報、バリアフリー	
■ 第3回文化の概念(大杉) (キーワード) 自文化中心主義、文化相対主義、ろう者文化	
■ 第4回ろう者・難聴者のコミュニティ(大杉) (キーワード) コミュニティ、デフコミュニティ	
■ 第5回ろう者・難聴者とメディア(大杉) (キーワード) 点字新聞、日本聴力障害新聞	
■ 第6回ろう者・難聴者と文学・漫画(大杉) (キーワード) 俳句、漫画、ろう者文化	
■ 第7回デフアート入門(大杉) (キーワード) 芸術、DeVia、聴覚障害者、手話	
■ 第8回ろう者・難聴者と遺伝子(小林) (キーワード) 遺伝子、医療倫理	
■ 第9回ろう者・難聴者とジェンダー(小林) (キーワード) ジェンダー	
■ 第10回乳幼児期から児童期の教育(石原) (キーワード) こたばの発達、言語の恣意性	
■ 第11回児童期から青年期の教育(石原) (キーワード) 特別支援学校、特別支援学級、インクルーシブ教育	
■ 第12回生涯学習と福祉制度(石原) (キーワード) キャリア発達、セルフアドボカシー	
■ 第13回障がい者のスポーツ①(中島) (キーワード) 国内、障がい者福祉施策、全国障害者スポーツ大会	
■ 第14回障がい者のスポーツ②(中島) (キーワード) 海外、障がい者福祉施策、障がい者スポーツの国際大会	
■ 第15回障がい者のスポーツ③(中島) (キーワード) 障がい者スポーツ指導者制度、障がい者スポーツの今後の展望	

③学生同士が議論する場の提供

それぞれの指導案にグループによる議論を設け、学生が自ら考え、発信する力を育てる。また、学生同士で意見交換をすることで様々な見方、考え方を学び、社会参加に結びつけられるようなテーマを設定している。

④入手しやすい教材、学習発展のための資料の提供

映像はろう者学コンテンツにある映像アーカイブだけでなく、各地の聴覚障害者情報提供施設で借りられる映像DVDやインターネット経由でYouTubeなど動画を視聴するなど情報源はすぐに手に入るもので幅広い。また、配布資料やワークシート、課題解答例などの資料が揃えられており、全てダウンロードが可能である。

※映像視聴と課題解答例の閲覧には利用登録(パスワードの発行)が必要です。

内容紹介① 第2回「宿泊施設の情報・コミュニケーション保障」



掲載: 日本聾哑ニュース, 昭和26(1951)年1月1日, No.30 新年号, 2面



1. 情報保障とコミュニケーション保障の違いを考える(導入)

聴覚障害者が社会的自立を果たす上で必要である情報保障を、宿泊施設の事例から学ぶ内容となっています。また、情報社会が進んでいても、まだなお聴覚障害者が生活のなかで情報不足を感じる場面が多くあることを踏まえて、聴覚障害者自身が社会にどう働きかけるべきなのかを考え、議論させることで課題解決能力を育てます。

2. 議論

宿泊時の問題点(不便な点、不安な点)を整理する。情報収集・予約、チェックイン、宿泊の場面別に、各グループから1つずつ出してもらおう。その中で「情報保障」「コミュニケーション保障」の概念で整理する。
 ♪宿泊室のドアにある理解促進と、宿泊者側としての「聞こえないこと」の伝達などが取組課題として挙げられることを確認。

3. 学ぶ

情報提供: 聾学校寄宿舎の火災事故について知る。
 映像視聴: 最新の情報アクセシビリティ機器の種類について知る。(手書き電話、聴導犬、光・振動機器など)

4. 宿泊施設の優れた取組例について(まとめ)

宿泊施設が光・振動機器をいくつ用意すれば良いのかという発問をして学生に考えさせる。地域の観光協会やホテルグループで対応している例を紹介する。

内容紹介② 第4回「コミュニティ」

同じ聴覚障害のある先輩が経験した内容から聴覚障害者観と社会的背景を学ぶことで、自分との共通点、相違点を見つけてみる。さらに、デフコミュニティのモデルを提示して、デフコミュニティとろう者文化について知り、自分の立ち位置、社会との関わりについて改めて確認をすることができます。また、今後の自分の社会との関わり方、将来について考える機会を与えます。



1. 同じ聴覚障害のある先輩の話聞く(学ぶ)

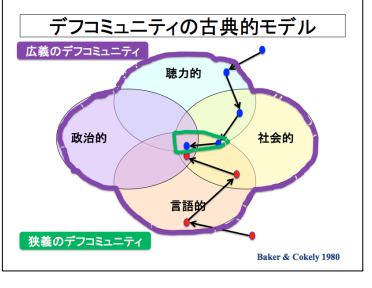
「自分史(肥田弘二氏)」の話を映像で流し、ワークシートにまとめる。

2. 議論

肥田氏の経験との違い、1960年代当時の世間の障害者観について考える。
 ♪1960年代に高校や大学への入学が断られたのはどうしてだろう。
 ♪1960年代の肥田さんとあなたの現在の経験で全く違う点はどういうものだろう。
 ♪逆に、時代が違っても共通している面は何だろう。

3. コミュニティの概念、文化との関係性について(まとめ)

Baker & Cokely (1980) のモデルを説明、デフコミュニティへの参加ルートの確認をする。狭義的、広義の見方についても話し合う。
 ♪手話の出来ない聴覚障害者も聞こえる人もデフコミュニティの構成メンバーとなりうる。



「キャリアインタビュー」昨年度より新設!!

社会で活躍する聴覚障害者に聞く～仕事や夢について～



岩山 誠氏 「ろうの子どもたちがろう者であっても自信をもって堂々と生きていける社会を」

ハローワークで就労支援に関わっていた当時の仕事、現在のNPOデフNetworkかごしまでの取り組みについてお話をいただきました。岩山氏ならではの「働く」について盛りだくさん載っていますので、大変勉強になる内容となっています!



若林 亮氏 「ロールモデルを追いかけて」

弁護士を目指すまでに様々な経験をされている若林氏。大学を卒業後に務めた新聞社での出来事、法科大学院での出来事についても触れられました。弁護士としても手話通訳者と行動を共にしながら働く姿にも注目です!

川俣 郁美氏 「米国留学から考えたキャリア～映画出演を通して～」
 「段また段をなして」でナレーションを務めた経験から、米国留学での経験まで幅広くお話をいただきました。帰国後の川俣氏の職場との関わりについても載せています。また、それらの経験が現在の仕事にどのように結びついているのかも分かるような内容となっています!

… 今後もまだまだ定期的に載せていきます!!

その他にも…

昨年7月にトルコ・サムスンで開催された第23回夏季デフリンピック競技大会について紹介ポスターを作成するなどの広報や本学卒業生、在籍生による選手インタビューも行いました!